

「ものづくり」の 「ものづくり」の 「ものづくり」の 「ものづくり」の

フジモリ産業株式会社



代表取締役会長兼社長
藤森 行彦 氏

紙製の円形型枠材の「フジボイド」。コンクリート内部に円形空洞や丸柱が作れる建築部材として、1956（昭和31）年発売し同社飛躍のきっかけを築いた画期的な製品だ。接着剤で重ね合わせた紙を螺旋状に巻き上げる独創技術は、次々と派生系の新製品を生み出し、やがて鋼板を螺旋状に巻いて高い強度を保つ空調ダクトへと発展を遂げ、今では自在に空間を演出するフレキシブルなダクトや企業広告も印刷可能な素材を用いたダクトなど多様な機能や素材を持つダクト製品を取り揃える。矢島匡顕取締役事業推進部長は、「他社にはない新しい商品を開発していこう」というマインドが、創業時からの当社のポリシーであり成長の原動力になっている」と強調する。

◆新商品開発を生み出し続けるDNA

1951年に、藤森工業株式会社の建材・土木用資材販社として設立され、

アスファルトの床材「アスタイル」の販売で事業をスタートした。フジボイドのほか螺旋鋼管ダクトの「フジスパイラー」、ビル用煙突の「ハイスタック」など周辺商品の開発を積極化。1968年に同じ藤森工業傘下の樹脂製品商社であった弥生商事と合併、建材・土木、化成品の3事業体制を確立した後も、新商品を開発するDNAを継いできた。今なお建材商品の多くを自社生産する一方、特許を中心とする知的財産権は164件を数え、建材と樹脂の領域でメーカー機能と商社機能を合わせ持つ「ものづくり商社」として、独自のポジションを獲得している。

商品開発の多くは、現状に満足しない一歩先を行く顧客本位の発想による。例えば、現場の人手不足や工期短縮を踏まえたワンタッチで接続できるダクト製品や省力化や作業効率の改善に貢献する軽量ダクトなど。営業が現場で起こっている問題を発見することで、顧客の要望を十分理解し、また自ら発想し顧客の課題解決に挑み、新たな価値を提供している。

モノづくりだけでなくビル用煙突の設置に伴う気流解析や断熱計算などの解析サービスも展開し、フジモリ産業の社員が建設現場の住民説明に赴くこともあるという。

◆問題解決人材を指す社内改革

こうした主体的な動きは、約15年前から全社的に取り組んでいる問



ノンネン®ファブリックダクト



F-ONE™タートル®チャンバー工法

経営理念

人と、技術と、情報と。すべてはお客様の
ために。

●長寿の秘訣

建材、土木、化成品の3分野で、創業以来、他社にはない新商品を次々に提供してきた。あっと言わせるような商品はなくても、顧客が喜び、顧客の課題を解決する製品を貪欲に送り出す同社の姿勢は、時代を超えて支持された。リスクを恐れ、受け身になりがちな時代にあって、創業時の精神が受け継がれているのも、現状に甘んじない不断の改革努力と高い挑戦意欲の賜物。フジモリ産業のような活力あふれる企業が、令和の時代を切り拓く。

70th

1951 - 2021

FUJIMORI

ANNIVERSARY

70周年ロゴマーク

●会社概要

設立：1951（昭和26）年3月

所在地：東京都新宿区西新宿一丁目23番7号新宿ファーストウエスト10階

事業内容：1. プラスチック原料・製品並びに関連機械の国内販売及び貿易
2. 建築・土木工事用資材の製造・販売並びに工事

資本金：3億320万円

売上高：294億円（2019年度）

社員数：235名（2020年4月1日現在）

URL：<https://www.fujimori.co.jp/>



関東工場（茨城県）

題解決型人材の育成によるところが大きい。改革を主導した矢島取締役は「もう一段の飛躍を目指すためには、社員に自信と力を持つてもらうことが大事。何事も主体的に問題解決できる人材を旗印に、事業部単位で改革のプロジェクトチームを作り全社に波及させていった」と説明する。やがて縦割り意識が取り払われ、組織を横断した活発な意見交換と情報共有が進み、社内には活気が満ち始めた。「ようやく当社の文化として定着してきた」（同）という。直近まで7期連続で増収増益を達成し、一連の社内改革によって同社が新たな成長軌道に入ったのは確かだ。

トンネル防水シートで強みを持つ土木部門が、高品質で長期間耐久性を必要とするコンクリート構造物を養生するため保水テープの開発や施工管理をより正確かつ効率的に行うためのICT機能を搭載した施工管理システムの提案を開始するほか、化成品部門において医療機器などで使われる滅菌包装材料の開発や従来プラスチックパッケージに現代の技術を融合し環境に優しいパッケージ作りに取り組んでいる。「さらに建材商品に樹脂を使うとか、3つの事業体を融合させた展開を進める」（同）一方で、2月、社員の更なる知的生産性向上を目的に本社を新宿に移転し、働く環境もしっかり整えた。創業100年に向けたフジモリ産業の快進撃が始まりそうだ。